

茨城) 筑波大の算数教科書、チリで活用 コロナで休校中

有料記事

庄司直樹 2020年4月12日 10時30分

シェア

ツイート

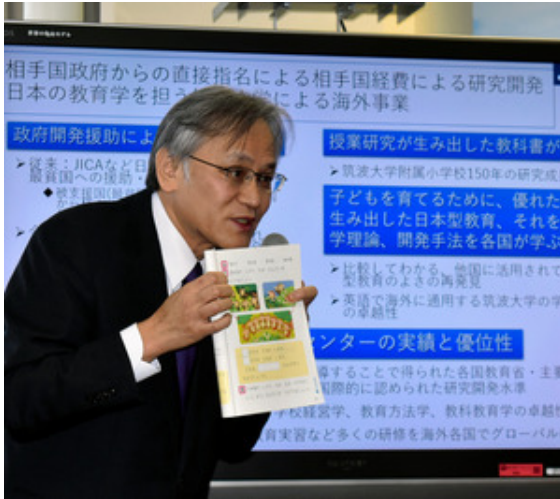
ブックマーク

メール

印刷

[list](#)

0



教科書について説明する礪田教授=茨城県つくば市の筑波大



新型コロナウイルスの感染拡大によって全土の学校が閉鎖されている南米チリで、筑波大が手がけた算数の教科書の内容が、テレビの遠隔授業で教えられている。楽しみながら数学の考え方を身につけられるよう工夫しているのが特徴で、日本の教育現場で培われた指導法が地球の裏側の家庭学習で役に立っている。

教科書を手がけたのは、教育開発国際協力研究センター長をつとめる礪田（いそだ）正美教授。礪田教授によると、チリ教育省から依頼を受けて、2019年から現地の研究者らと作業を始めた。小学1年生から6年生までの算数の教科書をスペイン語でつくる計画だが、これまでに1、2年生向けが完成。今年3月から約43万人が使っている。

OECD（経済協力開発機構）が18年に調査した「生徒の学習到達度調査」によると、チリの数学分野の順位は78カ国中59位（日本は6位）。算数の教科書は従来、ドリル形式で問題をひたすら解かせるような内容だったといい、礪田教授らは遊びの要素を採り入れたり問題を自らつくらせる形をとったりと内容を改善した。筑波大付属小の教師たちが実地で試行錯誤してきた指導法の成果を反映したものだという。

[PR]

ところが教科書を使い始めた矢...

残り: 266文字/全文: 759文字

無料登録して全文を読む

ログインして全文を読む

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ただいま無料会員登録で[🔒]有料記事を本数制限なくお読みいただけます。